

# くさか景子の ちょっ よろしいですか！

と

毎月発行 県政情報紙 2009年12月 Vol 31



## これではやっていけない！？ 身近な医療機関「有床診療所」が消える

有床診療所とは、19床以下の小規模な入院施設を備えた診療所です。常に地域住民の身近にあり、高齢者の医療や介護の受け入れから「かかりつけ医」の役割も担い、日本固有の優れた入院治療施設です。

しかし、過去20年にわたって極端に抑制されてきた低い入院基本料が経営を困難にしており、1990年には全国23000箇所あったものが、近年11000箇所まで落ち込んでいます。県内には、432箇所(H19年)前年より20箇所減り、茅ヶ崎市では、6箇所しかありません。また、大病院に医師・看護師が集中し、地方の弱小病院や有床診療所では、医師や看護師を募集しても集まらず、減少に、更に輪をかける結果となっています。



全国有床診療所連絡協議会の強い働きかけにより、このほど国では、診療報酬の改定により、入院基本料の値上げが検討されることとなりました。一歩前進といえます。

医療崩壊が叫ばれる中、救急搬送の約1割しか大病院搬送の必要がないといわれ、後は救急指定なら、診療所でも十分対応できます。地域に密着し、在宅医療の後方支援の役割も担う有床診療所を守っていくことが地域医療を再生する上で緊急の施策といえましょう。

## 11月22日 なぎさシンポジウムにパネラー参加して



### (ほのぼのビーチ茅ヶ崎主催)

当日は、柳島下水放流水の海への影響、相模湾の魚、侵食対策、海岸の稀少植物、波の状況など、県、市、漁業組合、サーフィン組合など大勢の人たちが海を語りあいました。

私は、海岸侵食問題やこれまでの取り組み、県の養浜対策、海岸環境向上のための考えなどを話しました。

治水、利水で私たちの生活は向上しましたが、自然を冒し、汚してしまい、環境をないがしろにしてきたつけが、海岸侵食という形でまわってきたのだともいえます。多大な税金をかけてその代償を払っていますが、人間として、将来の世代に美しい自然を引き継げるよう、海岸保全への努力が求められます。



国会議員、県議会議員による  
パネルディスカッション

\*くさか景子のひとりごと\* 活動報告の**ブログ**が出来ました！ぜひご覧ください！

<http://www3.ocn.ne.jp/~children/>

くさか景子

検索



## 横須賀軍港めぐりバスツアーに参加して(11月18日)

バスツアーに初めて参加した。今年のテーマは基地問題を考えるということで今問題になっている沖縄に次ぐ米軍基地が多く存在する神奈川県。前回の厚木、座間の米軍基地に次いで今回は横須賀軍港。途中横須賀に平成15年4月に開設された県立保健福祉大学を見学。大学、大学院を含め約1,000人の学生がこの立派な校舎の中で150人の先生、スタッフに介護実習を中心に勉強出来る事は素晴らしい事だと思った。途中から合流し基地問題に長年取組んでおられる原田章弘横須賀市議会議員の説明を受けながら港内を船上より見学する事になった。2008年9月25日より原子力空母ジョージ・ワシントンの母港化がなされ、ミサイル巡洋艦、イージス艦、原子力潜水艦、また海上自衛隊の船舶、海上保安庁の船が多数停泊しておりアメリカ国外で唯一の空母の母港となっている横須賀の軍港を目のあたりにする事が出来た。43名の参加者がそれぞれ感じた事があると思う。最後にみかん狩りで食べ放題、ビニール袋に詰め放題のお土産を持って帰途についた。9時間の内容のある楽しいバスツアーであった。



(下町屋 田草川 稔)



雨日の続く中、幸運にも晴れた貴重な1日、日下さんのツアーに初参加した。私には障がいをもつ子どもがいるので、まず大きな目的は、なんとと言っても開校間もないピカピカの県立保健福祉大学。ここでは多くの若い学生さんが医療や福祉をめざしている。社会福祉学科は、看護・栄養・リハ学科とちがいで開校と同時に開講したということでまだスタートラインに立ったばかり。今、社会の中で多くの課題が山積している知的・発達障害者へのケアについて専門性を高め発展して欲しいと痛切に感じた。横須賀の軍港めぐりでは、実戦に参加したであろう数々の軍艦を目の当たりにして、「戦争」の恐ろしさを実感した。調査艦では現在の国旗が掲げられていたが、戦闘用の艦では、過去の大戦で使用された昔の日の丸がはためいていた。戦う時にはこうやって人の心がマインドコントロールされていくんだと感じた。日頃意識して「戦争」には絶対反対だという意志表示をすることがやはり大切なんだと改めて感じた。

(円蔵 上杉桂子)



## くさか景子のほっとコラム

### またしても、少数会派の悲哀！一初めての決算特別委員会—

11月17日、7日間の平成20年度決算審査が終わった。平成20年度は、秋からの不況のため、法人から入る税収が減り、実質2年連続の赤字決算となった。

質問は、やはり大会派順で、自民党は一日2時間、一番最後の少数会派の私はたった9分、それが3日間と総括質疑は6分だけであった。答弁が長いとあつという間に時間が過ぎる。時計とにらめっこ、あせりまくり3~4回質問したら終わってしまった。深められない、物理的にちぐはぐな不十分な質問になってしまう問題点がある。

私の質問は、男女共同参画の推進、妊婦検診や不妊治療への助成、児童相談所の問題点、県立病院問題、海岸侵食問題・・・と少ない時間を有効に活用。県庁の女性管理職はまだ約1割、女性への支援や育成を特に追及。終了後、唯一の女性部長が飛んできてお礼を言われた。お互いマイノリティ、頑張ろう！